

11. 身近な人から何を聞くのか

部落差別(同和問題)についての情報を誰から聞いたかと部落差別(同和問題)にかかわる意見

◎パネル10

◎パネル9

への考えをクロス集計すると、それらの相関関係が見えてきました。

誰から聞いたか「C.同和地区の人にだけ特別な施策を行うのは不公平だ」

×意見への考え「E.同和地区の人にだけ特別な施策を行うのは不公平だ」

		意見への考え「E.同和地区の人にだけ特別な施策を行うのは不公平だ」		
		「そう思う」グループ	「そう思わない」グループ	
情報を誰から聞いたか	C.同和地区の人にだけ特別な施策を行うのは不公平だ	聞いたことがない	26.3%	30.7%
		家族から	75.0%	7.5%
		親戚から	64.1%	12.8%
		近所の人から	67.8%	15.3%
		友だちから	74.1%	8.6%
		職場の人から	68.6%	11.4%
		テレビ・ラジオ・新聞・本など	62.3%	13.0%
		インターネット上の情報	62.2%	18.9%

部落差別(同和問題)にかかわる意見で、「E.同和地区の人にだけ特別な施策を行うのは不公平だ」に対して「そう思う」「どちらかといえばそう思う」とその意見を指示する「そう思う」グループをみると、過去5年間にそのような情報を「聞いたことがない」県民と比べ、「家族から聞いた」48.7ポイント、「友だちから聞いた」47.8ポイント高く、家族や身近な人から聞いたことがある県民が偏見を肯定する傾向が見られます。

また、マスメディアやインターネット上の情報から聞いたとする県民も36ポイント程度高く、これらの情報を鵜呑みにして肯定する可能性があります。

家族や友だちなど普段の生活で身近な存在の人からの情報は、自身の価値観形成にも大きな影響を与えます。そのような中で、部落差別(同和問題)だけに限らず人権問題について偏見などの差別的情報ではなく、差別をなくすための話題や人権問題の正しい認識や情報など、差別解消の展望を持てるような話を家族間や身近な人たちとすることが個々の意識を変えることにつながります。